

人生100年時代における健康管理

田中 賢司

(医療法人宏和会岡村記念病院 企画運営部 部長)

医療経営士2級
認定登録番号：
22210316010020

【目的】

大阪大会では日本の病院はマレーシアと比べて「ディシプリン」の意識が強いが、最強の医療経営士は楽しんで仕事をする。つまり、「これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。」これは私の中では今でも変わらないが、今回は病院の経営改善への試みを発表する。

2024年度の診療報酬改定や全国的な物価高騰、賃金上昇の影響により、全国の病院経営は過去に例を見ないほど困難な状況に陥った。当院も例外でなく、経常利益がマイナスとなったため、収入増加策としてベッド占床率の向上に努めるとともに、保険診療外収益の強化を模索した。その一環として、心原性心肺停止患者の増加(令和5年度:91,498人)を受け、地域住民の突然死予防を目的とした「心臓・大血管ドック」を新たに開設した。本研究は、心臓・大血管ドックの導入および普及活動の効果および地域社会における受診率向上に与えた影響を検証する。

【実施方法】

心臓・大血管ドックは、特定健診では行わないCT・心エコーなどを組み合わせ、急性心筋梗塞や大動脈疾患(大動脈瘤、慢性大動脈解離等)リスクの早期発見を目指すものである。院内で広報活動を展開するとともに、清水町の健診補助金を活用し費用面での受診ハードルを下げた。

また、沼津法人会と連携し、セミナーを開催し企業代表者への啓発活動を行い、対象者層の拡大と受診機会増加を図った。聖隷沼津病院の人間ドックの

オプションに組み込んでもらった。そこに至るまで、聖隷沼津健診センターとの親睦、交流を図るために、病院ソフトボール大会を実施した。好評につき、病院数を拡大した。

【実施期間】

2025年2月～9月

【考察・結果】

実施開始から約半年間で、心臓・大血管ドックの受診件数は、広報活動および健診助成により一般市民からの受診希望が入り、法人会でのセミナーを通じて企業単位での申し込みも得られ、当初目標のとおりの結果となった。これにより、保険診療外収益の増加とベッド占床率向上にも一定の効果が認められた。

一方で、心原性突然死の社会的認知度向上や早期受診の重要性が少しではあるが、市民に伝わったことが、地域全体の健康意識向上につながったと考える。今後はフォローアップデータの蓄積、リスク層への継続介入など更なる課題も見いだされた。



◎たなか・けんじ

1992年明治大学文学部を卒業、プリンスホテルに入社。1993年赤坂プリンスホテル総務部人事課に配属。1996年医療法人社団宏和会岡村記念病院事務部総務課に入職。事務部医事課、事務部地域連携室を経て、2016年事務部部長に就任。2024年より企画運営部長に就任。